



一般社団法人あらかしき

大分県大分市王子中町3番5号 ふくろうの森ビル
TEL.097-511-1293 FAX.097-511-1293



ビルから街へ。人から人へ。
楽しいから 商いへ。

「商業×福祉」が街に活気を、利用者に社会参加の日常を。



~2021.7



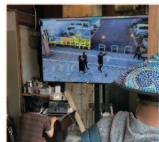
商店街の中にとけこんで 地域社会の担い手となった姿。

コロナ禍によって消失した利用者の資金をコロナ前と同水準まで戻しただけでなく、多様な人が行き交う商店街ではさまざまな業種の人たちに出会う大きなチャンスをお私たちに与えてくれました。

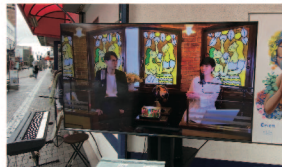
日々、商店街の中で利用者の方たちとお仕事をする中で築いた「人と人」の繋がりは、すでに敬意をもった人間関係に発展、それぞれが大切に育んでいます。

※こちらに掲載の写真はすべて当サポートスタッフによって、コロナ後に撮影したものです。





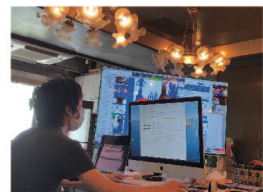
サイネージの接続テスト



サイネージ利用に先駆けてのテスト風景



1



サイネージの大型ディスプレイはインハウスでの使用も可能。柔軟に外でも中でも使えます。

事業内容 1

IT技術を活用した広報事業の実施

● 助成契約書記載の事業内容(予定)

1.IT技術を活用した広報活動の実施

- (1) 時期:2020年10月~2021年7月
- (2) 場所:大分市
- (3) 参加者:就労支援A型事業の利用者
- (4) 内容:LEDサイネージを使用した広報活動、ECサイトの管理・運営、商品包装・発送作業、顧客データの管理等

● 事業完了時の事業内容(実績)

- IT連携 遠隔映像システム(7拠点) 延接続数960箇所、利用総3,800時間
- LEDサイネージ 日常的にストリートにサイネージを出し、店舗・イベント情報を流した。
- 街中イベント12回仕様(OPENAIRSAKABA、滝藤太郎、ジャズ祭、トークライブ等)
- ストリート仕様3箇所 総利用時間780時間
- メディアセンター大型ビジョン120時間 (工期が遅れたため室内ビジョンで300時間使用)
- WEBサイト1、ECサイト2(A型、B型) 立ち上げ運用
- 顧客管理(CRM)5400人管理データベース クラウド化
- イベントデータベース 540件 クラウド化

● 成功したこととその要因

他の商店街では活用がすすんでいるが、五番街商店街には運用事業者がいなかったため、サイネージを利用した活動は注目されていた。通常の活動中及び、街中イベントでは常時活用する中で、写真撮影、動画編集、設置、運用方法をすべてスタッフ(A型利用者)のみで行えるようになり、商店街でのイベント時の利用相手がふえた。広告事業として3つの企業と動画撮影・編集をふくめた仕事として商談ベースののっている。

遠隔映像システムの利用により同時に数カ所での業務連携が日常化した。街中、郊外各拠点に分散化した共同作業を行えるようになり、人間関係もスムーズになったことで作業の集中度が増した。

タスク管理がより言語化(共有タスクリスト機能) 視覚化(画面共有機能) することにより、利用者の職務意識が高まった。WEBサイトの運用をスタッフが行えるようになり、「IT企業「モアモスト」との業務提携が実現。WEBマガジン運営や小規模事業所のサイト立ち上げ業務の委託が始まった。

サイネージをイベント等で導入したため、イベントの写真撮影や動画作成の案件、相談が増加した。あわせてイベント運用のサポート業務、コロナ対応の受付やテント、音響設置、チラシデザイン印刷など。

● 失敗したこととその要因

● 事業内容詳細

今後も複数事業所とイベントを結び、システム運用の継続を行う。今年9月からの「五番街商店街振興組合」からの事務局運営についても遠隔映像システムの活用がきまった。大分県商業活性化事業(3カ年)について基本計画(株まちなかクラブ、野村総研アドバイザー)のなかの五番街商店街におけるEC総合サイトの企画・運営にも参加することが決まった。





事業内容 2

フリーペーパーの企画・制作の実施

- 助成契約書記載の事業内容(予定)
- 事業完了時の事業内容(実績)

2.フリーペーパーの企画・制作の実施

(1)時期:2020年10月~2021年7月
 (2)内容:利用者が主体となり府内5番街のPR、音楽やファッションに関するフリーペーパーを制作

フリーペーパー VO1からVo5(継続中)
 府内まちなかジャズ、豊後ジャズ、たきれんたるう、こども未来トークライブ、たなばた、オープンエアサカバ、湯の花マルシェなど、企画・運営から参加・出店・演奏・撮影・編集・ライティング 当事者意識のなかで できるだけサポート側からは校正をいれず、オンデマンド印刷により柔軟に対応しながら増刷体制をくんだ。



● 成功したこととその要因

フリーペーパーの企画初期から、複数のデザイナー、ライター、カメラマンと協業し、スタッフ(A型利用者)の感性と表現力をいかし、徐々に編集能力を磨いていく形にした。

スタッフが運営・参加したイベント(チラシ、ポスター等のデザイン含む)など、当事者性の強い企画を中心に取材、執筆、編集を重ね、こつこつと自信と経験を積んでいったこと。

スタッフの編集スピードにあわせ、オンデマンド印刷なども活用し、小刻みな印刷と配布を当初いれることで、業務を習慣化できたことに要因があると思われる。

他の専門家、東京での大分をテーマにした題材の企画や今後のイベントプロジェクトと融合した形で編集方針をスタッフと共有できたことで、地域を支え、広く伝える担い手としての自負が利用者それぞれの意識の中に醸成されていったこと。各自編集テーマは随時ピックアップをして、常時10本程度を準備している。

当初は、スキルのあるスタッフ中心に自由に記事・レイアウト作成をし、徐々に環境整備とともにオペレーションスタッフを増やしつつ、パソコンスキルの研修等を加えていき、スタッフが取材・編集などで自主的に動けるような工程になったことが、商店街および行政の方の共感を呼び、仕事の案件に結びついている。



商店街理事とスタッフ(A型利用者)

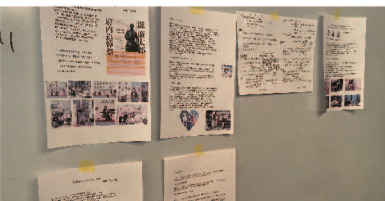
● 失敗したこととその要因

● 事業内容詳細

企画、撮影、ライティング、編集等 スタッフ(A型利用者)を中心とした、環境整備、学習システムを地元デザイナー、ライター、カメラマンと、東京企画会社LDL(元パルコ宣伝局長)とサポート体制を組み、より自由な表現から生まれるメディアを徐々にスキルアップしながら制作する方式をとった。

今後自社製フリーペーパーだけでなく、先にあげた大分県商業活性化事業基本計画のなかで「五番街商店街」のフリーペーパーを担うことを先方も検討している。

7月よりスタートした大分県商業活性化事業(3カ年)のコンサル事業の記録、編集についても検討中。



2





「福祉とまちのコロナボレシヨ」

府内探訪 日暮七郎

（株）ベツダイから取材を受け制作されたフリーペーパー

3

事業内容 3

複合メディアセンターの整備

- 助成契約書記載の事業内容(予定)
- 事業完了時の事業内容(実績)

3.複合メディアセンターの整備

(1)時期:2020年11月~2021年7月
(2)内容:電気工事、給排水工事、冷暖房設備

商店街中心部1喫茶店の厨房部分(10坪)をメディアセンターオフィスとして物件をリノベーション。
築50年かつ10年以上活用されていなかったため、コロナ対応の状況もあり、当初の見積りよりも、排水工事(複数回の階下への水漏れ事故による保険対応)、ガラス工事等に工期と予算がかかった。そのため令和3年3月末の工期を7月へ延長し、上記2事業も引き続き延長した。

● 成功したこととその要因

メディアセンター拠点とした旧喫茶モーガンは、大分中心部でもっとも近代的な商店街の中心にあるが、10年以上使用されていなかったため、工事中から周囲の目撃を集めていた。コロナ禍にあった中で立ち上げていった週末ジャズイベント「オープンエアサカバ」と連携し、ロゴ制作、出演・出店やサインージを利用することで、街中のカルチャーの拠点としての期待を商店街からあつめている。
街中の古い物件でのリノベーション実績が多数ある業者への委託であったため、近隣テナント住人の理解もあり、水漏れ事故時や騒音による苦情にも、対応がスムーズであったことが大きい。



府内5番街商店街イラストMAP
スタッフ(A型利用者)とともに
商店街組合と連携し制作

オープンエアサカバのロゴマーク
スタッフ(A型利用者)とともに
商店街組合と連携し制作

● 失敗したこととその要因

● 事業内容詳細

40年ほど前からあった純喫茶の跡地で、現在の50代以上の方の中で有名なところ。昭和レトロの喫茶の雰囲気のをこしつつ、メディアセンターとしてIT環境、サインージ等の整備を行い、商店街ストリート側からの景観も目立つものになった。
コロナ禍のためオープニングイベントは見合わせているが、すでに取材の依頼ははいている。(別途報告書内添付)
また、コロナの状況を見つつ地元新聞への取材の打ち合わせをしている。別途報告書を、五番街商店街振興組合、IT企業モアモアモスト、東京L.D.Lとの業務提携時に、大分市長、大分県知事への提出を計画している。

(株)ベツダイから取材を受け制作されたフリーペーパー

2 契約時事業目標の達成状況



●助成契約書記載の目標

街中の商いの最前線にいる人々と障害を持つ人々自らも当事者となって関わる事で、広報事業としての新しい収益源をつくる。

WITHコロナ時代における適度な距離感を保ちながら、豊かな人間関係に基づいた地域での日常をつくっていくことで、街の新たな彩りの中で、自立と生きがいを生んでいく。

地域社会の担い手の育成を目指して、指示や隔離を必要としない、街中に溶け込んだ次世代の福祉を促進する。



●目標の達成状況

- それまでの郊外での飲食とイベント中心とした収益構造から、街中心部での商店街運営や、イベント等に加わることで、より細かい身近な仕事をいただけるようになった。
- スタッフ(A型利用者)の給与水準がコロナ前にもどり、各個人ごとのデザイン、アートの依頼の仕事や、イベント運営での時間延長による、給与の上乗せが少しずつ可能になった。またスタッフが街のなかで働くことで貢献する意識が高まっている。
- スタッフと街の商店オーナーとの交流により、デザイン、アート、イベント運営等の仕事をいただけるようになり、当初の目的である、各個人の能力と働き方による給与制度の検討・整備を徐々に進めることができた。
- 多数の専門家(デザイナー、ライター、カメラマン、ミュージシャン、アーティスト、金融など)とスタッフ(A型利用者)が企画段階から同席し、当事者が語る言葉、思いをつなげていくアプローチを徹底した。デザイナーや活版印刷所の協力をえて、印刷、製本の方法を体験しながら試行錯誤を行うことで成果物に意欲がでた。
- フリーペーパー、各イベントチラシ、ポスターなども声かけはしたものの利用者が自主的に配布先を開拓し、テナントや地域住民へのコンタクトを利用者自身が行えるようになった。
- 演奏、アート、デザイン、料理等、「多彩な顔ぶれをもつ組織」というイメージが街に浸透し、企画段階から「FUKUEOU 5 STUDIO」へ声がかかることが多く、「場」をもつことで、その中心でスタッフ(A型利用者)が敬意をもって関わる事ができる今の状況を作ることができた。そのことが最大の成果だと実感している。

3 事業実施によって得られた成果



- 五番街商店街振興組合とくみ、アンケート配布など各店舗まわりなど、地域のなかで活動した。その活動が組合理事の信頼をえて9月より事務局運営を委託されることとなった。
- 大分県商業活性化 中部振興局 (令和4年度からは、大分市も参加)事業の「商業と福祉の連携」をテーマに3か年基本計画策定に加わった。コンサルタントに野村総合研究所アドバイザー坂口剛氏。
- LDLとの提携。ソーシャルインパクトをうむプロジェクトにつながった。
- 今後のカルチャーイベントの企画、メディア事業の展開、スイーツ研究などプロジェクトがたちあがった(別途報告書内記載)
- 創業296年別府温泉「湯の里」との音楽とサロンを融合したマルシェをスタートすることになった。
- 地元企業(大分銀行、プロスポーツ、百貨店等)や、地方行政(杵築市等)とのデザインや動画



大分銀行ディスクロージャー誌への作品提供

4 活動を通じて明らかになった新たな課題と対応策

- コロナで移動が制限され、フリーペーパーの当初企画していた著名人へのインタビューを、身近なイベントなどにフォーカスしなおした。
- 給与形態へのさらなる課題、各自のアート性、デザインなどクリエイティブな要素と給与のための評価基準が、それぞれの特性にあわせたものへと整備していくことと制度化の難しさ。本人、家族はもとより、他団体の考え方や前例を参考にしながら、独自の展開につなげていきたい。
- 街中の中心イベントへの参加や、事業者からの声かけが増えていくなか、スタッフの労働性とスキルアップ、専門家との協業をより拡充していく必要がある。
- 複数の事業者、専門家とチームを組むことにより、より大きな案件(行政プロポーザルなど)の実績を積み上げていくことで、地域の信頼感を高めていくこと。

